

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992300028		
法人名	社会福祉法人 寿真会		
事業所名	グループホームらくえん倶楽部		
所在地	山梨県中央市極楽寺745番地1		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎の良さを持つ、田園地帯で少し足をのばすと大型スーパーや外食産業も軒を連ねて環境に恵まれている施設においては、定員7名という小じんまりした家庭的な雰囲気の中で特養との併設により医務や栄養管理が充実されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養と併設された施設で、周囲に畑や民家が点在している。中庭は安心して散歩でき、事業所内の空地では野菜を栽培しており、家族的な環境を整えている。地域密着型サービスとして地域との交流が多く持たれ、職員の医療的なスキルも高く利用者が安心して過ごせる環境の中で、積極的に日々の作業に励んでいる利用者の笑顔がとても印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームらくえん倶楽部

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的雰囲気の中、地域に開かれた施設として、全職員が理念を共有して高齢者福祉に貢献している。	地域との情報交換の機会を多く持つようになっている。資質の向上を目指すユニット会議は全員が参加できる夜8時から毎月開催し実務的な課題についても共有化を計っている。利用者の残存機能を生かすこと、一人ひとりのプライバシーを護ることなどを話題としている。地域の行事への参加を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練やふれあいサロンなど声かけをして頂き参加し又、祭りへの参加やボランティアの受け入れ等積極的に行っている。	民生委員や回覧などから地域の催し等の情報も多く、地域の行事(ふれあいサロン、文化祭など)に参加している。地域のボランティアが、毎月地域の話しをしたり傾聴・食事作りなど寄りそう活動をしている。地域の河川清掃時には、利用者と共に参加している。地域の避難訓練に参加している。中学生や保育園児の体験学習の場として訪問がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの方々が見える機会に認知症の発信して理解をいただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場において外部評価の情報や年間活動報告等しているが、今年は大きな震災をテーマに話題は広がり、地域の方々の意見を頂き取り組みの向上に繋げている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況、行事報告、運営状況、待機者などの報告や災害ボランティアとして参加した職員からの報告や、外部評価の報告などもしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席を願い活動報告やグループホームでの待機者状況報告をしている。 又、入退居者や事故報告をしてアドバイスを頂いている。	市の介護保険課に入院につながる入居退去の相談、転倒事故、介護医療など報告・相談をしている。地域包括支援センターとの連携機会は、施設のケアマネに相談することで解決し、相談する機会は少なくなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に基き拘束をしないケアを基本に取り組んでいる。入居時に書類を以って説明し入居者の尊厳の保持に努めている。	身体拘束をしない方針を徹底している。スピーチロックに関しては、接遇研修会を通じ、専門職として自覚を持つよう心がけている。特に言葉遣いは丁寧に、問題があった時には、他の職員に直ちに交代したり、上司のアドバイスをもらうようにしている。認知症の人に対応する専門職として日常心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、日々のケアの中から認知症の病気の理解を職員相互で学び、入居者に接する態度、言葉には研修を重ねている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設職員相互で成年後見制度について情報を共有してグループホームに入居されている入居者が2名、制度を活用されているので認識を高めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約に関しては、入居者及びご家族、連帯保証人の方に説明し理解して納得された時点で署名捺印を頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のご家族の情報交換の場を設定し又、自由にご意見を寄せて頂く箱を用意している。 ホームから月1回の便りを出している、緊急性のある時は電話で情報を伝えている。	家族会は、夏祭り、クリスマス会の機会に、活動報告、アンケート結果報告など議題とし食事と一緒にしている。月一回の家族への施設便りは、ほほえましい内容となっている。家族の要望で、病院のリハビリや散歩の機会を増やしたり、平行棒利用などの生活リハビリを取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、職員全体会議、業務会議や職員と施設長との個人面談により有意義な意見交換の場をつくり反映している。	全体会議(月1回)、ユニット会議、業務会議(月1回)朝礼時を活用し職員の意見を出せる仕組みがあり、職員の代表者からの要望に対しては、上司から必ず回答することとなっている。年一回の個人面談時には、個人の希望を聞いている。永年勤続表彰制度もあり、福利厚生(日帰り旅行・忘年会等)が充実している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適任者を引き出しユニット介護リーダーの交代をしたり、永年勤務の定着のため表彰や定期昇給等職員の意欲を引き出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの資質の向上を旨とし、施設内研修や施設外の研修、資格取得への支援をしている。 又、変則勤務での受講が出来ない時への配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設訪問やケアマネさんを通して利用者さんの情報のやりとりなど支援をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、地域から何をどうしてほしいのか現状の課題を探り安心、安全な生活が出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	個々のニーズの中から、ご家族が何を一番不安に思っているかを聴き取り、安心して心を開けるような環境をつくり信頼関係の構築に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を取り巻く環境の中から適格に必要なニーズをつかみ、安心出来る様な支援の提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	住み慣れた地域で、なじみの関係づくりの中から自分らしく生活出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性を大切に必要情報を伝え、また家族の方からも信頼関係の中から本人を取り巻く情報を得て、安心して入居生活が維持出来るよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域で、なじみの関係が継続出来る様、家族や友人、ボランティアの方々から来苑をして頂いたり、地域の祭りやスーパーへの買い物、地域での集会に参加している。	家族の来所が多く、墓参りに一緒に行っている。なじみのボランティアが来ている。昔なじみの地域へのバスハイクを行っている。利用者は外食時に好きな料理を注文している。施設の周りを散歩し地域の四季の変化を感じている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲立ちをして、共通の話題の提案をして会話を広げたり、ゲーム、カラオケなど得意とする部分への意欲を引き出している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族との出会いなどの時、様子を伺ったり相談された事には快く対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からニーズを聴き取り「本人らしく」生活出来るよう家族と職員で共有し、思いに近づけるよう努めている。	食べ物の好き嫌いなどは、本人や家族から聞いたアセスメントを参考に、日頃の状況のカンファレンスにおいて、課題として捉え、プラン作成に活かしている。生活状況は24時間シートによって把握し、その中から全職員で、確認することとしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより生活歴、社会歴を把握して、本人家族の課題を分析し、適切な支援が出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を大切に日々の生活に生きがいが持てるよう、その人らしさを見出して側面から援助している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリング、再アセスメント、プランの評価等から介護計画の原案を作成し、担当者会議にて決定し家族に説明同意を得ている。状況に変化が生じた場合は変更している。	ユニット会議では、各人のプランをたたき台に、短期目標の評価を行い、その中から見える課題を抽出し、職員間で意見交換をしている。担当職員制を軸に細かい配慮がされている。3ヶ月に一回計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中から個別の気づきを記録し職員で共有している。カンファレンス時に情報交換をしてプランの見直しをして実践へと繋いでいる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養と併設のため医療連携の強化、管理栄養士による楽しい食事作りの援助、成人病の食事対応等、一人ひとりに適切な方法で対応が出来る。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方、メイクボランティア、幼稚園児、レクリエーション活動など多様な資源で元気を貰い、気分転換をして変化のある生活支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の家族が主治医の選択をされて月2回の往診と緊急を要する時の受診体制が取れて安心した医療対応が整っている。	入居時に家族と相談し、施設のかかりつけ医と契約している。月2回の医師の往診がある。歯科・眼科についても施設の看護師が契約医の往診を手配してくれている。夜間の緊急時にも施設の担当看護師がかかりつけ医に連絡してくれる仕組みができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が特養と併設のため、常駐化し、連携管理と維持管理が出来る。緊急時の対応も出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の適切な判断により入院治療の受け入れもスムーズに出来、退院後のカンファレンスなど一連の連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療との連携により終末期のあり方については、入居時または終末期に家族、本人の意向を大切に主治医、看護師、介護現場の職員がカンファレンスを行い情報を共有して支援している。	看取りに関しては、医師の協力を得て希望があれば対応している。過去に対応したこともあり、家族と長い時間共に過ごし、利用者と職員で見送りを行なった。成年後見制度を活用している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルにより、実践出来るよう、ユニットまたは、施設全体で研修を重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民と一緒に訓練や年2回の施設内訓練を実践する中、東日本の大きな震災を教訓に利用者の生命を守る大切な訓練を重ねていく。	9月に地震を想定した避難訓練を併設の施設と共に実施、車いすの利用者も参加した。夜間は夜警職員が巡回している。停電があっても、施設の自家発電で対応できる。消防署から職員のヘルメット着用者が少ない、わが身をまず守れ、消火器を全員使えるようにとの指示があった。寝たきりの利用者対応を心配している。	火気を使うことの多い厨房から出火した場合、非常口が厨房と同じ方向にあり、部屋や浴室を利用していた時、避難路の確保が困難であるため、新たな避難路の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の「人間性の尊厳」を守る事を事業所の理念に掲げ、尊厳ある言葉使いや対応の仕方を職員全体で共有し実践している。	入浴・排泄については、本人の希望通りに対応しており、おむつ交換時にもプライバシーに配慮している。高齢者に対する尊重した言葉遣いで対応している。失禁しても他の利用者には悟られないような支援を行ない「その人らしさ」を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語による意志表示の困難な方やコミュニケーションが取りにくい方など個性はあるが、ゆったりとかかわり表出して信頼関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転の方へのかかわりなど本人の意向を聴き取り日中の活動へと繋げ自分らしく一日の生活リズムが保てるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部より散髪、メイクボランティア等の来苑があり、美への関心を高めている。綺麗になった自分を写真に収め残すようにしている。衣服で季節感を出し、昼と夜の着替の介助をして、一日の変化を知ってもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の出来る部分への参加をしている(洗う、切る、配膳する) 過日は畑のじゃが芋の収穫時、カレーを作り楽しんだ。	庭で利用者が栽培している野菜を活用している。献立は栄養士が作成しているが、その日採れた野菜を使うよう臨機応変に楽しみながら調理している。利用者本人の嗜好に合わせて工夫している。食事の準備や皿洗いなどは、できる利用者が行っている。調理は利用者の出来ることは一緒にしている。煮物のおいしそうなおいがあり食欲をそそる。食器やスプーンは利用者の使いやすい工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士との連携により栄養のバランスのとれた食事の提供に心がけている。 特に水分の摂取量には気を付け確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前には、言葉かけや介助にて口腔ケアを実践している。 義歯の管理も同時に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄リズムにより誘導したり、介助をして自立支援を促している。	排泄管理は、パソコンに登録されていて、時間でトイレ誘導を促すような支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医務と介護現場で一緒に便秘の予防に取り組んでいる。調理には、繊維性の食品を取り入れ工夫している。また、リハビリ運動も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のニーズを大切に、生活の中でも入浴は気分転換や身体清潔等、重要な位置を占めているので、プライバシーの面も考慮しながら楽しい入浴が出来るようにしている。	入浴は基本的には、午後としているが、希望があれば午前中でも対応している。少なくとも、週2回以上は入浴をしている。入浴時間は1人15～20分程度となっている。お風呂は広く設備も整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活の中、一人ひとりの生活リズムに合わせて、休息を取り入れて、バランス良く夜間安眠出来るような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の用法を理解して、誤薬のない支援に取り組み、利用者一人ひとりの内服状況の把握と確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の皆様が一人ひとり「自分らしく」なじみの生活が出来るよう、調理や清掃、野菜作りなど参加の出来る環境づくりをしている。生活に変化が持てるようバスハイクや戸外食事を実施し、楽しみをつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の年間目標にも掲げている。「月に一回以上は外出する。」その目標に向け利用者のニーズを聞き入れ要望を家族の協力を得ながら行っている。	施設の周囲を毎日昼食後20分程度散歩している。月1回のバスハイクを行なっている。入浴者の少ない日には、個人レクとして、利用者の希望によって買物や公園に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預り金としてのお金があり、外出時は自分で自分の欲しい物を見つけ買えるように支援している。(個別レクの時、時間をかけ実践している。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で話が出来るよう支援している。また、手紙が届くと返信するよう促し介助しながら安心の生活のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出した時の草花を空間に飾ったりして季節感を回想している。本人の趣味の作品など部屋に飾り、「自分らしさ」を生きがいにしている。	グループホームの玄関を入るとキッチンがあり利用者と職員が一緒に調理の下準備をしていた。季節を感じさせる花器、貼り絵、塗り絵、行事写真など壁に掲示されており、館内には、穏やかなバックグラウンドミュージックが流されている。くつろぎやすいソファが配置され、テーブルに花が飾られている。掲示された写真に関しては、個人情報に配慮しながら飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自のユニットでゆったり暮らしてもらう時間や共用空間で他者との関係づくりやレクリエーションの場にして楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から本人が使用していた「なじみの道具」など持ち寄ってもらい、少しでも家での生活に近い安心した生活が出来るよう支援をしている。	居室には、外出したときの写真や好みのぬいぐるみなどを持ち込み、馴染みのたんすや使い慣れた茶碗を持参されている。布団干し、シーツ交換、洗濯干しなど利用者と共にしている。食後には部屋に戻るのではなくソファに横になってくつろいでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのニーズを把握して、残存機能の維持をはかり、自立出来る部分への支援をしている。		